



# 中部人懇だより

令和4年度 第2号  
令和4年10月発行  
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」は「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年（昭和46年）に発足しました。

本会の取組は同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について語り合うことで、中部全体の人権意識の高まりを生み出してきました。

「中部人懇」って  
こんな会です！



令和4年9月30日（金）、保育所（園）・認定こども園等の先生方を対象として、第3回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を紹介します。

## 【講義】「発達が気になる子への支援と保護者支援について」

『エール』発達障がい者支援センター  
所長 松田 啓生 氏



（主な内容）

### （1）発達過程を把握する

発達過程を把握し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮する。また、子ども一人一人の発達過程を把握しながら、長期的な指導計画、短期的な指導計画を作成すること。

### （2）主訴の背景にある発達の特徴を知る

行動への理解を深める。見えている現象だけを捉えて指導すると、指導と子どもの姿に差が生じ、効果的な指導につながらない。幼児理解は、内面理解である。見えていない部分にも焦点を当てていくこと。そして、「自立」を促すようにしていくこと。

### （3）クラスの中での個別支援

- 職員間では・・・発達の特徴、発達障がいの特性等の共通認識をした上で、手立ての共有、統一をすることと、実行する「体制の調整」を図ること。
- 環境として・・・就学を見据えて、個を大切にしながらも集団の中での成長も見ていくこと。そのためには、徐々になくす支援、残しておかなくてはならない支援について考えていくことが大切である。また、分かりやすい環境づくり、保育室づくりに向けた準備も大切である。

## 【参加者の振り返りより】

- 成長とともに、減らせる支援や続けていく支援があるということを改めて学んだ。子どもが自立していくために必要な視覚支援や、チームで取り組む支援を考えていきたいと感じた。
- 行動の背景にある特性や理由に目を向けて、「誤った支援」とならないようにしていきたい。
- 「支援」の形を変えながら、自立に向かっていけるように努めていきたい。
- 大人の思い込みや決めつけで子どもの姿を判断しないようにしていきたい。
- 一人で全部を抱え込むのではなく、担任と加配、さらには園全体でチームとなって対応することが大切だと改めて学んだ。

幼児教育は、子どもたちの内面に目を向けていくことが大切です。そして、「自立」の保障も大切！子どもたちへの支援、援助、配慮事項等今一度点検してみましょう。

